

玉川学区防犯マップ

この地図は、立命館大学理工学部環境システム工学科の学生と玉川小学校の児童、そして地域の住民と一緒にまちを歩き、犯罪に強いところ、犯罪に弱いところをチェックしてまとめたものです。犯罪に強いまちづくりを進めるためには、自分たちのまちに関心を持ち、自分たちのまちをよく知ることです。未来を担う子どもたちが安心して暮らせるまちを目指し、犯罪のない明るいまちづくりを進めましょう。

歩道

歩行者専用道路があり、安全に児童が登下校できる。

はさま公園

周囲の目が届きやすく、子供が安心して遊べる。利用時間も指定されている。

トンネル

暗く、人目につきにくい。ため、ひたつきりや痴漢に注意が必要。交通量も多い。

歩道

Bbの裏路地は人目につきにくく、明かりも少ないため、夜間の通行は要注意。

ゴミの散乱

ゴミの散乱や放置は住民の目が届いていないことを表し、犯罪を企てる者へ隙を与える。



駐輪場

犯罪の8割が窃盗犯、内4割が自転車盗。半分が無施錠。必ず施錠!!

トンネル

自動車、自転車、歩行者共用のトンネル。薄暗く道幅も狭いため、通行の際は痴漢やひたつきりに要注意。

ゴミ集積所

整理されており、住民の目が届いている。これも犯罪抑止力につながる。

トンネル

屋間でも薄暗く、痴漢が多い。注意を促す看板が設置されている。

廃屋

人目につきにくく、大人も子供も近づかないよう注意が必要。

けいたくんとたび丸くんからのお願い

まち歩きに出かけよう!! 改めてまちを歩くと、その移り変わりやイロイロな魅力を発見できるんだ。みんなでまちを歩き、まちを大好きになって、大好きなまちを守ろうね!

3つの盾 (犯罪機会論) に基づく犯罪に強いまちづくり



「見えにくい (監視性が低い)」「入りやすい (領域性が低い) 場所は危険!」
犯罪機会論とは犯罪者に犯罪の機会を与えないことによって、犯罪を未然に防止しようという考えです。見えにくく、入りやすい場所は犯行に都合の良い場所といえます。まずはこのような場所を把握し、対策を講じることが犯罪に強いまちづくりの第一歩です。

①領域性の盾 犯罪者の接近を防ぐ! 「物理的 (フェンス)、心理的 (地域コミュニティ) バリア」によって、犯罪者の標的への接近を防ぐ。

②監視性の盾 地域の目を光らせる! 目撃される可能性が高ければ、犯行を思い止まらせることができる。

③抵抗性の盾 一人ひとりの対策! 犯行におよんだとしても、一人ひとりの対策 (鍵かけなど) によって犯行を達成させない。

NO